

# 葉状囊肉腫 (Cystosarcoma phylloides) の1例

和歌山県古座川病院 (院長; 木下総一郎博士)

木下 総一郎・毛 受 武 重

戸 谷 源 由・三 瀬 真 一

(原稿受付 昭和33年8月4日)

## CYSTOSARCOMA PHYLLODES MAMMAE REPORT OF A CASE

by

SOICHIRO KINOSHITA, TAKESHIGE MENJO  
GENYU TOTANI and SINICHI MISE.

From the Kozagawa Hospital, Wakayama Prefecture  
(Chief : SOICHIRO KINOSHITA M. D.)

A thirteen-year-old girl was admitted our clinic on Aug. 9th 1958 because of rapidly enlarging bilateral painless tumors of the breast. The left mammary tumor was larger than the right.

The left tumor was lobulated and the cut surface presented a mixture of firm, white tissue with several cysts. Microscopical examination revealed that the left tumor was cystosarcoma phylloides and the right was fibroadenoma mammae. There was no metastasis in the axillar lymphgland.

Cystosarcoma phylloides was first described by JOHANNES MÜLLER in 1838. Cystosarcoma phylloides is a very rare tumor and it represents today a group of tumors such as cystosarcoma mammae proliferum, pearly cystosarcoma phylloides, proliferous cystosarcoma and giant fibroadenoma etc. (Table 1).

In the left tumors, microscopically there was a remarkable proliferation of interstitial connective tissue, and the hyalinized stroma was seen.

The right breast macroscopically differed from the left entirely. Histologically it was typical fibroadenoma.

### 緒 言

乳腺線維腺腫はマストパチー、乳癌について、頻度の高い乳腺腫瘍であり、この線維腺腫の亜型とされている疾患が巨大線維腺腫、あるいは葉状囊肉腫と呼ばれる疾患である。この疾患は極めて稀れで、好発平均年齢40才代といわれている。したがって10才代の少女に発生したものは殆んど報告されていない。われわれ

は最近13才の少女に発生した巨大な乳腺葉状囊肉腫を経験したので、本疾患の文献的考察をあわせてここに報告する。

### 症 例

患者：○本○枝 13才

主訴：両側殊に左側乳房の無痛性腫大

現病歴：約1年前から両側乳房がよく発育し、最近

異常に大きくなった様に思う。殊に左側乳房が大きく腫大し、乳頭が内方に陥入された様になつて来た。(図1)。

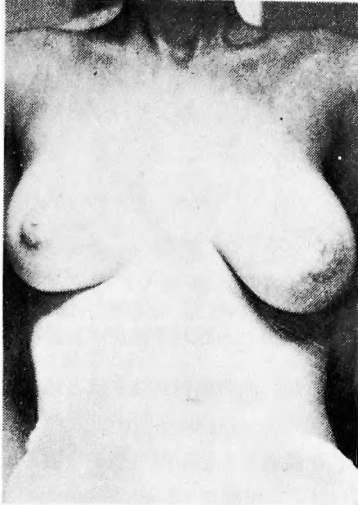


図1 左乳腺 Cystosarcoma phyllodes  
右乳腺 Fibroadenoma

前病歴：4才の時腎炎となり 發育は 障碍されていた。

家族歴：持記すべきものを認めない。

現症：1) 全身所見 体格中等度，顔貌やや蒼白，体重 36kg，血圧 110~80 mmHg，脈搏 96/分整，緊張良，時々 37.2°C~37.5°C の発熱あり，又月経は1年半位前から認められる。2) 局所所見：左乳房が右に較べて下垂し，両側殊に左に強い静脈努張を認める。左乳房全体が腫瘤として触れ，大きさは大人手拳大，上内四半分の表面は不平，波動性軟，上下四半分

は弾性硬で，圧痛あり，膚皮，大胸筋共に癒着は認められない。右乳房にも内，外上四半分に全体として鶏卵大の境界明瞭な腫瘤を触れるが，圧痛は認められない。両側腋窩に2~3個小豆大から指頭大のリンパ節を触れ硬度は弾性硬である。側頸部鎖骨上下窩にはリンパ節を触れない。

#### 検査成績：

赤血球：445×10<sup>4</sup>，白血球 9000，ザーリー 88%

血液像：中性嗜好性白血球 67% (桿状5%，2核13%，3核26%，4核17%，5核6%)，リンパ球 28% (小16% 大12%)，単球 3%，エオジン嗜好性白血球 2%

出血時間：3分40秒

尿所見：正常，P. S. P. 試験，正常

肝機能：モイレングラハト黄直指数 7.5

B. S. P 試験 30分 5% 以下，コバルト反応 R<sub>4</sub>(2)。

尚右乳腺の Biopsy を某院でうけ癌であるといわれたという。そこでわれわれは一応臨床診断を乳癌として手術を行なつたのである。

手術術式：左 逆行性乳房切断術  
右 乳房切断術

摘出標本：腫瘤は全体として大人手拳大であるが，鳩卵大又は示指頭大の腫瘍が集つており，一部囊腫状の部分を知る。腋窩リンパ節は大豆大のものが数個あつた。右側腫瘤は被膜で覆われており，実質性の腫瘍である。

組織学的所見：左側の腫瘍は間質結締織が増殖し，

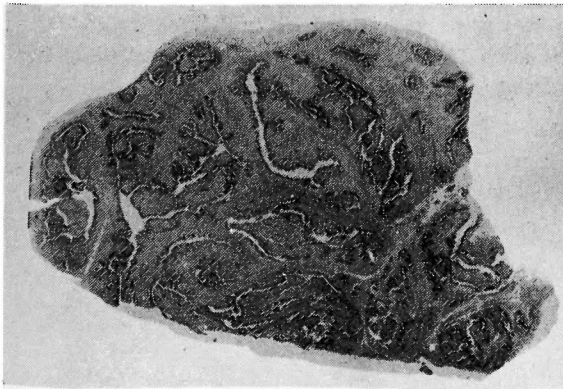


図2 左側乳腺 H-E 染色 接写。

乳管上皮の増殖及び分葉形成あり，又一部蜂窩織状ともなつているが間質には著明な増殖をみとめられない。不規則な腺腔形成を示す。

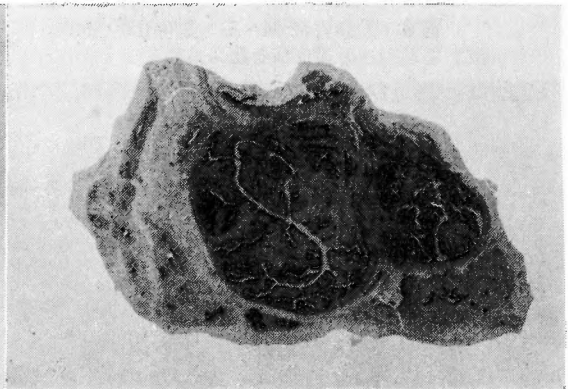


図3 左側乳腺 H. E. 染色 接写 図2に同じ。

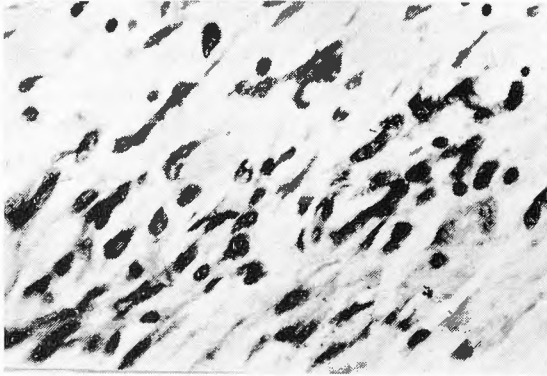


図4 左側乳腺 H・E 染色×400 (図1)  
 間質に異型の細胞を認めるが著明ではない。

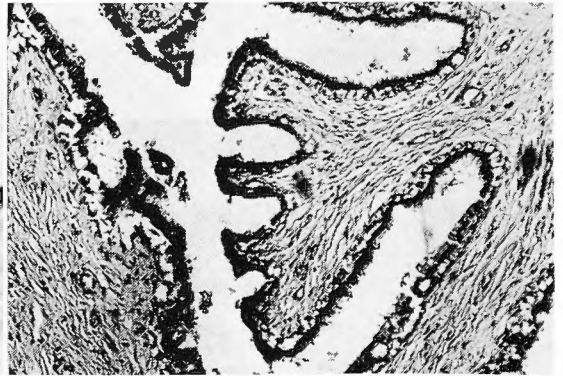


図5 左側乳腺 H・E 染色×100  
 乳嘴状の管内増殖とよく発達した結合織を認め、異形の上皮細胞と一部硝子様変性を伴っている。

所々不規則な腺腔形成を示し(図2, 図3), 上皮細胞の乳嘴状増殖も認められる(図5)。これが他病院で癌と診断された原因であろう。全体として葉状の組織像を示し所謂 *Cystosarcoma phyllodes* の像をしている(図6, 図7)。また所々結合織の硝子化を示してい

る部分もあるが、間質細胞にはさほど強い悪化は認められない(図4)。右側は外見上、左側と異り腫瘍は solid で、組織標本も腺組織及び結合織の均等な増生をみとめられ、単純な *Fibroadenoma pericanaliculare* の所見で、部位により腺上皮は稍不整形増生



図6 左側乳腺 H・E×染色100  
 分葉形成を認める。

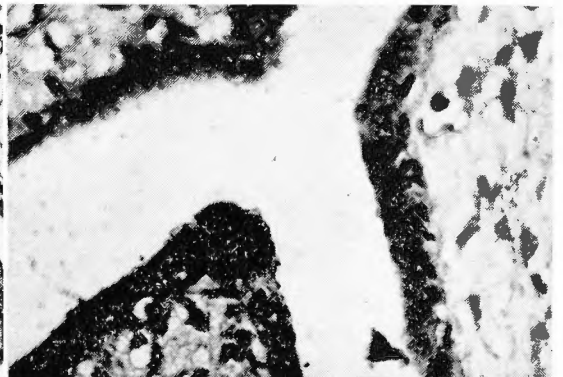


図7 左側乳腺 H・E 染色×400 (図6)  
 異形の上皮細胞増殖と結合織への浸潤がある。



図8 右乳腺肉眼標本

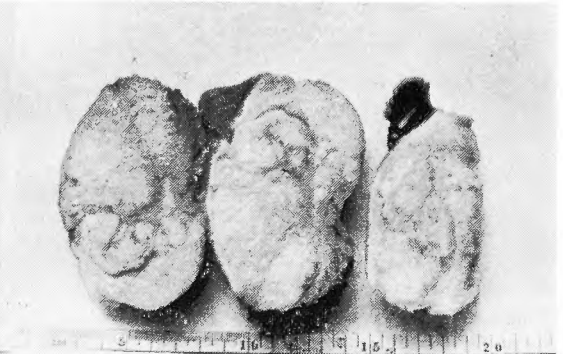


図9 左乳腺肉眼標本

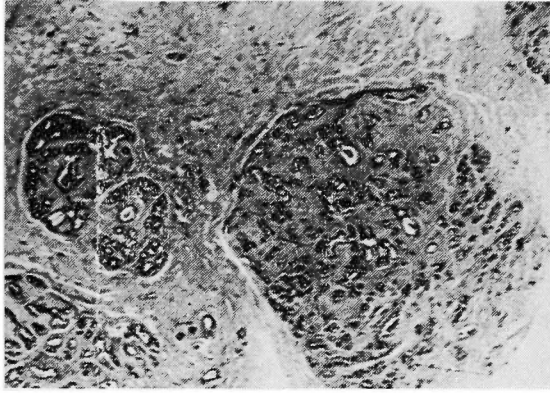


図10 右乳腺 H・E 染色 接写  
軽度の乳管の増殖とよく発達した結合織  
には異型の細胞は全く認められない。

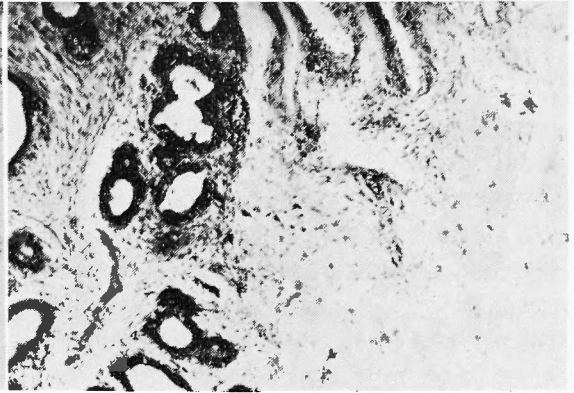


図11 右乳腺 E・H×400 (図8)  
軽度の上皮細胞の増殖のみを認める。

の傾向はあるが Cystosarcoma phyllodes という程ではない (図10, 図11)。

#### 組織学的診断

左側 Cystosarcoma phyllodes

右側 Fibroadenoma pericanaliculare

#### 考 按

葉状囊肉腫 (Cystosarcoma phyllodes) は特種な臨床的病理学的性質を有する乳腺の腫瘍で、線維腺腫の一亜型と考えられる。

Cystosarcoma phyllodes という名称を用いたのは Johannes Müller (1838) であるが、この疾患は Sarcom という語から連想される様な悪性の腫瘍では決してなく、組織学的に Sarcoma 様の像がみられるのでこの名称をつけたのである。勿論時には悪性で、転移を来す場合もあるが、かかるものは更に悪性 (malignant) と特に但し書をつける場合が多いのである。

現在のこの疾患と同義語もしくは関連があると考えられる病名は非常に多く、Stewart その他によれば第1表の様に夥しい数にのぼる。また日本でもこの疾患の名称は第2表の様にまちまちであつて、統一されていない。

この疾患の発生頻度は一般の線維腺腫に較べてはるかに少なく、Haagensen によれば乳腺の線維腺腫の2%にすぎないという。

わが国では佐藤は線維腺腫の14例中1例に本症を認めたと報告し、岡本は24例中7例に認めたとしているが、梶谷は癌研究所で手術した349例の中4例が本症であつたという。

発生年齢は一般の線維腺腫より稍高年齢に好発する

というものが多く、Haagensen は50才代が最も多く平均45.1才、Lee and Pack には44.6才、Lester 等は44才、Treves は40.9才、岡本は37才、梶谷は37.8才としている。

Haagensen の最年少例は15才であつた。ところでわれわれの例は13才で発生年齢からみてもまことに珍しい1例であるといえる。わが国では永井が13才の少女に発生した乳腺腺腫の1例を報告しているが、これも本症の範疇に入るものではないかと考えられる。

本症は多発する事は稀であるとされているが、McDonald and Harrington は13例中4例に両側乳房に発生したという。

元来本症の発育は早いとされている。併し発生当初から急激に増大するものと、数年間にわたりあまり増大せず、ある時期が来たときに急に増大するものがあるのである。この様なものは線維腺腫の間質の肉腫様増殖によつて、Cystosarcoma phyllodes に移行するものと考えられる。本例も右側は線維腺腫であつたが、将来或いは Cystosarcoma phyllodes に移行し得たかも知れない。

Cystosarcoma phyllodes の組織像は、一見管内性線維腺腫が増大した様な、所謂葉状の像を示すので、この名があると考えられるが、第1表のような多数の表現があることから分る様に、非常に variation に富んだ組織像を示す。

即ち間質細胞の異型像が強くと肉腫様になつたり核分裂も見られる反面、硝子様変性または粘液腫様の組織像を示す場合もある。そしてまた上皮細胞の増殖が著明で所謂 Carcinosarcoma の所見を認めることもある。更に血管の侵入の強い場合や軟骨化生の認められ

る場合もあるといわれる。

内皮細胞腫 (Endothelioma) とまぎらわしい組織像を示す場合もある。われわれの症例も、上皮の乳嚢状増殖が著明な部分があつたので、他病院で乳癌と診断されたのであろう。

一般に本症は巨大なものでも転移は少ないとされている。併し勿論本症が真に悪性化した場合はリンパ節転移や肺転位のおこる事も報告されている。われわれの症例は腋窩リンパ節の転位が認められなかつたので良性的のものと考えられるが、年齢が非常に若いので将来予後を観察したいと考えている。

第 1 表 (Table 1)

- 1) Adenocystosarcoma
- 2) Adenoma pseudosarcomatodes
- 3) Adenomyxoma (Wilms)
- 4) Adenosarcoma
- 5) Alveolar sarcoma
- 6) Angioectatic sarcoma
- 7) Brodies serocystic disease of breast
- 8) Brodies tumor
- 9) Cystosarcoma phyllodes
- 10) Carcinosarcoma
- 11) Cellular hydatids (Cooper)
- 12) Composite cystoids
- 13) Cystoadenoma phyllodes
- 14) Cystoadenosarcoma
- 15) Cystofibroma papillare
- 16) Cystoma papilliferum
- 17) Cystosarcoma
- 18) Cystosarcoma arborescens
- 19) Cystosarcoma intracaniculare
- 20) Cystosarcoma papillare
- 21) Cystosarcoma poliposum intracaniculare
- 22) Cystosarcoma proliferum
- 23) Fibroadenoma intracaniculare fibromatosum
- 24) Fibroadenoma intracaniculare sarcomatodes xantomatodes
- 25) Fibroadenoma phyllodes (benign) (malignant)
- 26) Fibrocystoadenoma intracaniculare
- 27) Fibromyxoma intracaniculare obliterans
- 28) Fibrosarcoma
- 29) Geratinous cystosarcoma
- 30) Giant fibroadenoma
- 31) Giant intracaniculare fibroadenomyxoma
- 32) Giant intracaniculare myxoma of the breast

- 33) Giant mammary myxoma
- 34) Glandular proliferous cysts
- 35) Indigenous sarcoma
- 36) intracaniculare myxoma (Virchow)
- 37) Intracaniculare sarcoma
- 38) Malignat fibroadenoma
- 39) Miniature cystosarcoma phyllodes
- 40) Mixed tumor of the breast
- 41) Mutation tumor
- 42) Pearly cystosarcoma phyllodes
- 43) Periductal sarcoma
- 44) Pseudosarcoma
- 45) Serocystic sarcoma
- 46) Simple cystosarcoma
- 47) Tuberos cystic tumor of the breast
- 48) Proliferous cystosarcoma

第 2 表

- |             |               |
|-------------|---------------|
| 1. 分葉状嚢状腺腫  | 2. 巨大線維腺腫     |
| 3. 粘液線維腺腫   | 4. 嚢胞葉状肉腫     |
| 5. 嚢状線維肉腫   | 6. 嚢状線腫性粘液線維腫 |
| 7. 葉状型線維腺腫  | 8. 葉状嚢肉腫      |
| 9. 葉状嚢胞肉腫   | 10. 葉状線維肉腫    |
| 11. 葉状嚢腫性腺腫 |               |

## 結 語

13才の少女に発生した両側乳腺腫瘍で、左側は Cystosarcoma phyllodes, 右側は Fibroadenoma であつた 1 例を報告し、あわせて多少文献的考察を加えた。

種々御教示御指導をいただきました京都大学増田強三講師に厚く御礼申し上げます。

## 文 献

- 1) Boyd, W. : Pathology for the Surgeon. Philadelphia, 417, 1956.
- 2) Blood-good, J. C. : Benign Tumors of The Breast. Ann Surg., 79, 172, 1924.
- 3) 藤田一也他 : 急速に発育せる両側性巨大乳腺線維腺腫例。京府大誌, 27, 878, 昭14.
- 4) 原 勇 : 巨大なる乳腺線維腺腫の 1 例。外科 15, 266, 昭28.
- 5) Haagensen, C.D. : Diseases of the Breast. 235, 1956. W. B. Saunders Company, Philadelphia and London.
- 6) 石橋健夫 : 乳房部に生ぜる懸垂状線維腫。皮膚科皮泌尿科雑誌, 40, 533, 1936.
- 7) 久留 勝 : 前癌状態について。日外誌, 58, 537, 1952.
- 8) 梶谷 環他 : 乳腺腫瘍。日本外科全書, 14, 289,

- 1957.
- 9) 近藤駿四郎：乳腺 Cystosarcoma phyllodes の2例。日外会誌, 47, 40, 昭23.
  - 10) Lester J., Stout A. P., : Cystosarcoma phyllodes. Cancer, 7, 335, 954.
  - 11) Lee B. J., Pack G. T., : Giant intracanalicular fibroadeno-myxoma of the breast. The so-called cystosarcoma phyllodes mammae of Johannes Müller. Am. J. Cancer, 15, 2583, 1931.
  - 12) 間島 進他：慢性囊腫性乳腺症の臨床病理学的研究。臨床外科, 12, 901, 1957.
  - 13) 増田強三：腫瘍の成立と内分泌。最近医学, 13, 2147, 1958.
  - 14) Mc-Donald J.R., Harrington S., W. : Giant fibroadenoma of the breast-Cystosarcoma phyllodes. Ann. Surg, 131, 243, 1950.
  - 15) 永井宏一他：13才の少女に発生した悪性変化を伴った乳腺腫の1例。外科, 15, 416, 1953.
  - 16) 中西正雄：乳腺に発生する粘液線維肉腫。日外会誌, 2, 昭3.
  - 17) 岡本隆彦：乳腺線維腺腫について。東北医誌, 44, 12, 昭25.
  - 18) Stewart F. W. : Tumor of the breast. Atlas of tumor pathology, IX, F. 34, 68, 1950.
  - 19) 佐藤沢文：乳腺線維腺腫。岡山医誌, 50, 1301, 昭13.
  - 20) 杉本雄三他：所謂“Cystosarcoma phyllodes”の2例。癌の臨床, 5, 225, 1959.
  - 21) 谷口積三：乳腺における前癌性変化の組織化学的研究。日本臨床, 14, 1497, 1956.
  - 22) Treves N., Sunderland D. A., : Cystosarcoma phyllodes of the breast: a malignant and a benign tumor. Cancer, 4, 1286, 1951.
  - 23) 牛島 宥他：乳腺腫瘍の病理シンポジウム。臨床病理, 7, 151, 1959.
  - 24) 吉川俊一：葉状型乳腺線維腫の1例。東北医誌 47, 691, 1953.